

西中の風

～継続と徹底～

伊丹市立西中学校長

大西 規之

全国学力調査の分析を踏まえて

4月17日（土）に3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果は、7月下旬に学校に返却される予定ですので、2学期初めの学校日より「西中の風」でお知らせします。この調査の目的は、生徒の学力上の課題を見つけ、それを補うための授業をするということです。7月下旬の結果を待っているのは対応が遅くなるため、学校ですでに採点を行い、いち早く課題を見つけ、それを補う授業を行っています。特に3年生は、進路があるため、課題克服が重要となってきます。各教科の先生が工夫を凝らして授業をしていますので、生徒のみなさんは授業を大切に、日々学習に取り組んでほしいものです。

各教科分析結果と対策

【国語科】

基礎的な漢字や語彙、言葉遣いなどに関して、一定の理解があり、定着していることがうかがえる。また、それらを活用して、文章を読み取り、発話者や登場人物、筆者の意図を読み取るということも得意であることがわかる。

ただし、記述式の問題の正答率から、読み取ったことを文章として表現したり、要約したりするという〈書く力〉が弱いことがうかがえる。自分が読み取り、理解したことを文章化してアウトプットする力が不足している。

以上のことから、国語においては、自分が理解したことを他者へ向けて発信する力、表現する力を養う、表現活動や作文などの活動を強化して行っていく。

【数学】

全体的に設問を丁寧に読むことが弱く、キーワードから思い込みで解答を選んでいたり、誤読による

誤答と思われる部分が見られた。また、図形分野や根拠を示して説明することが苦手であることがわかった。

授業中に文章題を扱う際には、文章を読めているかどうかをキーワードや数に線を引かせて、読み漏れがないように練習をする。また、説明の問題に関しては口頭だけでなく、箇条書きで書きたいことを書かせ、まとめる練習を行う。

【理科】

理科に関する基礎的な知識や器具、事象の名称、記号については一定の理解があり、定着していることがうかがえる。また、実験した結果の表やグラフの読み取りに関しても、一定以上の理解が得られている。ただし、複数の条件をからめての考察や、実験結果からその原因を考察したり、さらなる疑問をあげ、それを解決する方法を思考する力が不足している。また、それを表現する力もついていないことがうかがえる。身につけた知識をいかして、能動的に課題に取り組む主体的な思考を高める必要がある。また、「割合」を導く計算にも弱さがうかがえる。

以上のことから、授業で実験・観察を多く取り入れ、実体験の機会を多く設ける。その際、現れた結果から、どのように考察し、どのように結論に結びつけるか、自分たちで主体的に話し合いをさせて、論理的な思考を深めさせるように工夫する。また、練習問題として、思考力を問う問題にも多く取り組ませ、課題解決能力の定着を図る。

